皇帝の語感

2021年7月31日
小林　保

(1) 仮説

アメリカ帝国主義という言葉がある。1965年頃から1975年頃のにかけてベトナム戦争が行われ、日本でも報道されていた。北ベトナムと南ベトナムの内戦であったが、アメリカが南ベトナムを、ソビエトと中国が北ベトナムを応援して激しい戦争になっていた。ベトナム戦争に関連してアメリカを批判する場合に、アメリカ帝国主義という言葉が使われていた。筆者はアメリカ帝国主義という言葉に違和感を持ったが、違和感についてうまく説明できなかった。ずっと心の片隅に引っかかってはいたが、すぐに答えが見つかる訳もなく時間が経過した。言葉や歴史について知識が増え、1つの仮説を思いついた。

英語やドイツ語やフランス語など西ヨーロッパで用いられる皇帝と中国語や朝鮮語や日本語など東アジアで用いられる皇帝は、言葉の成り立ちから考えて、微妙に意味が異なっていることに気が付いた。西ヨーロッパの言葉としては、アメリカ大統領は皇帝と呼ばれてもおかしくはないが、東アジアの言葉としては、アメリカ大統領が皇帝と呼ばれるのはおかしい。東アジアの言葉に属する日本語を母語とする筆者が違和感を抱いた原因と思われる。1つの仮説である。

(2) 西ヨーロッパにおける皇帝

西ヨーロッパの国々にとって、古代ギリシャ、古代ローマが先進文明であった。古代ギリシャ、古代ローマの文明の影響を強く受け、学問的な用語や政治的な用語は古代ギリシャ語や古代ローマ帝国の国語であるラテン語から借用している例が多い。皇帝に当たる英語のEmpererはラテン語のImperatorに由来する。古代ローマは紀元前27年に共和政から帝政に移行した。ローマの皇帝は実質的に世襲されても共和政の名残から元老院で選挙される建前であった。西ヨーロッパの文明においても、建て前と本音が使い分けられていることが見て取れ、興味深い。建て前と本音の使い分けは日本の文明だけの特徴ではない。962年に建国された神聖ローマ帝国は７人の選帝侯による選挙によって皇帝が選ばれていた。選帝侯は有力な封建領主で、皇帝を選出する選挙権を持っていた。英語でKing、Duke、Marquis、Count、Baronは封建領主で、世襲が原則であったが、Empererは選挙が原則であり、異なっていた。フランス皇帝になったナポレオンも、世襲貴族の子弟ではなかったので王や伯にはなれず、議会で選挙されて皇帝になった。選挙で選ばれる皇帝の方が世襲の王よりも支配する領域が広く、格が上であると一般的に認識されていた。アメリカ大統領は選挙で選ばれるので、皇帝と呼ばれてもおかしくはない。

(3) 東アジアにおける皇帝

東アジアの国々とって、中国が先進文明であった。中国の文明の影響を強く受け、学問的な用語や政治的な用語は漢語を用いている例が多い。漢語は古代中国語である。

中国古代の神話において、理想的な或いは祖先神的な君主として皇や帝が語られた。周の時代の君主は王、公、候、伯、子、男と呼ばれ、それぞれの領地を統治し、王を中心に緩やかに連合し、平和を築いた。周の平和が乱れた後に再統一した秦の王は、王より上位であるとして、神話の皇と帝を合わせて皇帝の称号を新たに作り、自分の称号とした。以後の漢、隋、唐、宋、元、明、清の統治者は皇帝を称号とすることになった。中国で清の後は中華民国、中華人民共和国が成立した。中華民国の統治者の称号は総統であり、中華人民共和国の統治者の称号は主席である。いずれも世襲では無く選挙で選ばれる。世襲ではないので皇帝を用いなかったと思われる。

日本は中国の文明の影響を強く受けたので、皇帝と言えば中国の皇帝のように世襲されると思い込んでいる。日本では古代に成立した天皇家が世襲して天皇を称号としている。天は頭上に広がる広大な空間であり、神聖な意味を帯びる。皇帝の皇と天を組み合わせて天皇の称号を作った。日本で生まれ育った筆者にとって、選挙で選ばれるアメリカ大統領が皇帝と呼ばれることは思いも及ばなかった。

(4) 帝国

古代中国の神話における帝と異なる意味で用いるが、皇帝を省略して帝という場合がある。皇帝の意味の帝が統治する国が帝国である。中国では、秦帝国、漢帝国、隋帝国、・・・、清帝国が国号である。古代ローマ帝国も神聖ローマ帝国も皇帝の意味の帝が統治したから帝国である。日本の天皇は皇帝と同義と認識されていた。明治維新政府は天皇の意味の帝が統治する大日本帝国を国号とした。

(4) 異なる文明の理解

技術が進歩し、全地球的な規模で往来するようになると、異なる文明の人々とも交流するようになる。言葉を翻訳するときに、注意しないと誤解が生じ、混乱することになる。Empererと皇帝は、王よりも格の上の強力な統治者という意味では、西ヨーロッパと東アジアで共通であるが、西ヨーロッパでは選挙が原則、東アジアでは世襲が原則である。Empererを皇帝と訳すと、東アジアではEmpererは世襲と誤解される。かなりの時間が経過して、定着してしまったので、今更変更も難しいが、Empererを皇帝と訳したのは、不注意であったと思われる。Empererは世襲と誤解すると、筆者のように長く違和感に悩まされることになる。Empererを首領や棟梁のように世襲を示唆しない称号に訳しておけば、誤解を避けられたと思われる。